

留萌産トドマツ販路の拡大

～地域林業の発展に向けた民有林との連携～

留萌北部森林管理署

背景・現状

- 留萌地域の人工林は、民有林・国有林ともにトドマツが主体で資源の充実に伴い、素材生産量の増加が予想される。
- 当地域では大規模な木材加工施設が無いことから、大半は上川・宗谷方面に輸送費をかけて移出されている。
- 公共事業による木材利用が多い中で、トドマツ材ヘシフトするための需要開発、間伐材・林地未利用材の利用促進策が不足。

将来目標

- ☆林政連絡会議・流域林業活性化協議会で販売促進対策の検討、流通状況の情報交換・情報共有等を通じて留萌産トドマツ販路の拡大を目指す。
- ☆資源の安定供給体制の確保により継続的な輸出等を実現し、地域林業の発展と収益性向上を図る。
- ☆民国一体となった事業ベースの低コスト化

平成27年度の取組

- ◎輸出業者の動向把握、受け入れ情報の収集
- ◎輸出向け物件提示及び情報提供
- ◎天塩港からの移出・輸出の可能性の検討
- ◎地域における木質バイオマス利用・促進への支援及び資源の安定供給に向けた情報提供

取り組み状況

- 協議会
協議会では、ペレットボイラーの先進地から講師を招いてのセミナーに参加、津別町木質バイオマス関連施設視察に参加。
- 情報収集
低コスト間伐現地検討会（共同施業団地内）において道有林と一般民有林の共同出荷の取組に参加。
民有林実務見学会に参加。
宗谷総合振興局管内の勉強会に参加。
- 情報提供
韓国輸出に向けた取組として、月別生産量や資材内容などの情報提供を行った。
民国連携して一元的な地図情報とするため国有林GISデータを提供した。
- 天塩港からの輸出
豊富町や幌延町からでも留萌港に集荷しており、水深や荷役設備等の関係で大型船（2000t級）が現状では入れない状況となっている。輸送コストや流通の根本的な解決のためには港湾の整備が必要である。

地域における主な状況

- ・民有林が主導し、留萌港から3回のトドマツ約7千m³を韓国輸出（中国向けには、国有林材（立木販売）からも出材された）
- ・苫前町の小学校にペレットボイラーが導入

今後に向けて

- 相互の連携・情報交換により可能な協力・方策の検討。
- 韓国輸出に向けたトドマツ材の生産量・時期に関する情報収集・提供
- 販売促進対策として需要者のニーズを把握し、地域材のPRとブランド化による利用拡大の推進。
- 木質バイオマス資源の利用、中間土場による流通の改善等

